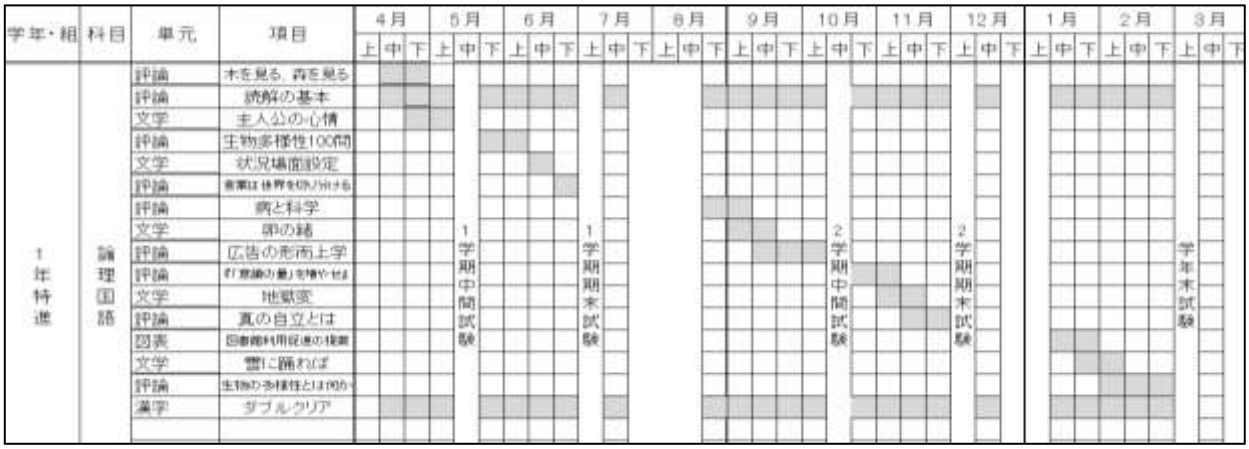
授業科目	現代の国語				令和７年度 国語科シラバス
学年（コース）	１学年	特進	単位数	２	
授業内容	○　読解の基礎的な方法を理解する。（文の構造・文章の構成など日本語の規則や論理の基本、筆者の主張を把握する着眼点など） ○　漢字・語彙など基本的な知識を習得し、それを活用して読解する。 ○　評論の構成や展開を捉え、論旨を的確に把握し、要約する。 ○　小説に描かれた出来事・場面・登場人物の心情や関係性を読み取る。 ○　グループ学習・発表・質疑応答などの活動を取り入れ、人の意見を理解し、それに対する自分の意見を表現する。 ○　さまざまなテーマの文章や作品に興味関心を持てるように読書指導を行う。				
到達目標	○　基礎的な語彙力をつけて、自己の言語能力を高める。 ○　主張と論拠など情報と情報との関係について理解する。 ○　情報の妥当性や信頼性の吟味の仕方について理解を深める。 ○　思考力を高め、自己の思いや考えを表現する力を身につける。 ○　ものの見方や考え方を深めるとともに、人と理解し合う態度を養う。				
評価方法	①知識・技能、②思考力・判断力・表現力、③主体性の観点から、定期考査を中心に、小テスト・課題・提出物・ノート・授業に対する態度・ふり返りの状況などから総合的に評価する。				
使用教材	教科書　現代の国語（東京書籍） 副教材　WINSTEP 論理的文章（Learn-s） WINSTEP 文学的文章（Learn-s） ダブルクリア（尚文出版）				
その他	○　予習として、本文を読み、語句の読み・意味調べを行うこと。 ○　漢字検定の目標級を設定して、その取得に努めましょう。 ○　本や新聞など日常的に文章に触れて、自分で考える習慣をつけましょう。				

●授業進度表（現代の国語　１年特進）



授業科目	言語文化				2025 年度 国語科シラバス
学年（コース）	１学年	特進	単位数	３単位	
授業内容	＜古文＞ ○古文と現代文の違いを知り、古文を読むための基本的な知識（単語・用言・助動詞・敬語など）を習得する。 ○文法と訳の結びつきを意識して、口語訳をする。 ○古典作品を自分なりの視点で読み、作品に対する自分の意見を持ち、表現し合い、読みを深める。 ・説話を読み、古人の知恵や生き方に触れ、古文を読む楽しさを知る。 ・随筆を読み、筆者のものの見方や考え方を理解し、自分なりの考えを持つ。 ・歌物語の登場人物の行動を読み取り、和歌に詠まれた心情を考える。 ・和歌の修辞を理解し、詠まれた状況や心情を想像し、和歌を鑑賞する。 ・伝奇物語の登場人物の行動を読み取り、その理由から心情を考える。 ・各作品に関する文学史の知識・時代背景・古文常識を理解し、鑑賞に活かす。 ＜漢文＞ ○漢文を読むための基礎知識（訓点、書き下し文、置き字、再読文字、句法）を習得する。 ○知識を活用し、様々な作品を読解する。 ・漢文故事の面白さを知るとともに、そこに現れた人間の考え方を理解する。 ・寓話を読解し、その話が意味する内容を捉え、現代の生活に結びつけて考える。 ・史話を読解し、人物の言動や心情を捉え、時代背景を考慮して、人間の生き方を考える。 ・漢詩のきまりを理解し、表現された情景・心情を想像し、漢詩を味わう。				
到達目標	○作品に対する興味・関心を育み、古典に親しむ。 ○語彙や文法の基本知識を理解し、作品を読解することができる。 ○時代背景について理解し、作品世界における人々の思想や感情を読み取り、自分のものの見方や考え方を豊かにする。				
評価方法	①知識・技能、②思考力・判断力・表現力、③主体的に学習に取り組む態度、の３つの観点から評価する。具体的には、定期考査を中心に、実力テスト・小テスト・課題の提出状況・日常の授業への取り組みやグループ活動への参加態度・振り返りシートの内容などをもって、総合的に評価する。				
使用教材	教科書　「精選　言語文化」（東京書籍） 副教材　「新修古典文法　二訂版」（啓隆社） 「ドリル編　新修古典文法　二訂版」（啓隆社） 「プログレス古典総演習　基本編」（いいずな書房） 「プログレス古典総演習　標準編」（いいずな書房） 「新明説漢文」（尚文出版） 「新明説漢文ノート　修訂版」（尚文出版） 「古文単語 330　四訂版」（いいずな書店）				
その他	○予習を徹底し、自力で読解する練習をする、授業後復習をし、確認する、そのサイクルを確立しましょう。課題なども含め、何事も丁寧にとりくむこと。疑問があれば、質問に来てください。 ○出来る限り多くの古典に触れ、古人の感じ方や生き方を思い、古典を楽しんでください。				

●授業進度表（言語文化　1年特進）

学年	科目		単元	項目	4月			5月			6月			7月			8月			9月			10月			11月			12月			1月			2月			3月		
					上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下
1年特進	言語文化	古文	文法	用言					1学期中間試験					1学期期末試験								2学期中間試験						2学期期末試験									学年末試験		
				助動詞																																			
				敬語																																			
			説話	宇治拾遺物語																																			
			随筆	徒然草																																			
			物語	伊勢物語																																			
			和歌	万葉集・古今集・新古今集																																			
			物語	竹取物語																																			
		漢文	訓読の基本	訓読・再読文字																																			
				句法																																			
			故事成語	故事成語																																			
			寓話	戦国策																																			
			詩文	漢詩の決まり・文																																			
			史伝	十八史略																																			

授業科目	歴史総合				2025 年度 地歴公民科シラバス
学年・コース	1学年	特進	単位数	2	
授業内容	○近現代の世界の形成過程を諸資料に基づいて学習する中で，日本と諸地域との関わりについて理解する。 ○現在の社会の諸問題や諸課題の形成過程を学び，その原因や解決に向けた方策について考える。 ○それぞれのテーマについて，資料から読み取ったり，自分の考えを文章にまとめたり，発表を行ったりするなど表現活動に取り組む。 第 1 章　結びつく世界と日本の開国　　第 2 章　国民国家と明治維新 第 3 章　総力戦と社会運動　　第 4 章　経済危機と第二次世界大戦 第 5 章　冷戦と世界経済　　第 6 章　世界秩序の変容と日本				
到達目標	・教科書や資料集から必要な情報を選びとることができる。 ・近現代における重要な出来事について，必要な知識を獲得している。 ・現代社会の抱える諸課題について，その形成過程や原因について理解している。 ・現代世界の抱える諸国間の対立について，その歴史的背景を理解し，今後の国際平和のために必要なことを考えることができる。 ・現代世界における諸課題について，歴史的背景や利害関係を理解したうえで，当事者意識をもってその諸課題の解決方法について考えることができる。 ・現在の諸課題についてどう取り組んでいくべきかについて話し合い，解決策を提示することができる。 ・世界の抱える諸課題について，グループ活動を通して，協働して理解を深め，プレゼンテーションを行うことができる。				
評価方法	「知識・技能」（40%），「思考・判断・表現」（30%）については定期テストをもとに評価する。「主体的に取り組む態度」については，提出物，小テスト，プレゼン発表，レポート等をもとに評価をする。（30%）				
使用教材	教科書：『現代の歴史総合～みる・読みとく・考える』　（山川出版社） 副教材：『現代の歴史総合～みる・読みとく・考えるノート』（山川出版社） 『歴史総合問題集』（山川出版社）				
その他					

●授業進度表

学年 コース	科目	単元	項目	4月			5月			6月			7月			8月			9月			10月			11月			12月			1月			2月			3月		
				上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下
1年 特進	歴史総合	第Ⅰ部	第1章　結びつく世界と日本の開国					1学期中間試験						1学期期末試験			夏休み						2学期中間試験					2学期期末試験			冬休み					学年末試験		
			第2章　国民国家と明治維新																																				
		第Ⅱ部	第3章　総力戦と社会運動																																				
			第4章　経済危機と第二次世界大戦																																				
		第Ⅲ部	第5章　冷戦と世界経済																																				
			第6章　世界秩序の変容と日本																																				

授業科目	数学Ⅰ Ⅱ			2025年度 数学科シラバス
学年・コース	1学年	特進	単位数	4

授業内容

数学Ⅰ

第１章　数と式

　数を実数まで拡張する意義を理解できるようにする。また，式を多面的にみたり処理したりするとともに，１次不等式を事象の考察に活用できるようにする。

第２章　集合と命題

　集合と命題に関する基本的な概念を理解し，それを事象の考察に活用できるようにする。

第３章　２次関数

　２次関数とそのグラフについて理解し，２次関数を用いて数量の関係や変化を表現することの有用性を認識するとともに，それらを事象の考察に活用できるようにする。

第４章　図形と計量

　三角比の意味やその基本的な性質について理解し，三角比を用いた計量の考えの有用性を認識するとともに，それらを事象の考察に活用できるようにする。

第５章　データ分析

　統計の基本的な考えを理解するとともに，それを用いてデータを整理・分析し傾向を把握できるようにする。

数学Ⅱ

第１章　式と証明

　整式の除法，分数式の計算，等式・不等式の証明について学ぶ。

第２章　複素数と方程式

　方程式について理解を深め，数の範囲を複素数まで拡張し，二次方程式を解くこと及び因数分解を利用した高次方程式を解くことができるようにする。

到達目標

・各章の学習により，数学のよさを認識し，それらを事象の考察に活用して数学的な考え方に基づいて判断しようとする。

・学習した内容を用いて日常生活に関わることを分析しようとする資質を育む。

・解法の論理を過不足なく明確に表現できる。

評価方法

①　知識・技能：定期考査，小テスト等

②　思考・判断・表現：定期考査，小テスト等

③　主体的に学習に向かう態度（粘り強さ・調整力）：振り返りシート

①～③を総合的に判断する

使用教材

教科書：「ＮＥＸＴ 数学Ⅰ」「ＮＥＸＴ 数学Ⅱ」（数研出版）

副教材：「ＣＯＮＮＥＣＴ 数学Ⅰ＋Ａ」「ＣＯＮＮＥＣＴ 数学Ⅱ＋Ｂ」（数研出版）

「チャート式 解法と演習 数学Ⅰ＋Ａ」（数研出版）

「大学入試全レベル問題集　数学Ⅰ＋Ａ＋Ⅱ＋Ｂ①基礎レベル」（旺文社）

その他

学年・コース	科目	単元	項目	4月 上	4月 中	4月 下	5月 上	5月 中	5月 下	6月 上	6月 中	6月 下	7月 上	7月 中	7月 下	8月 上	8月 中	8月 下	9月 上	9月 中	9月 下	10月 上	10月 中	10月 下	11月 上	11月 中	11月 下	12月 上	12月 中	12月 下	1月 上	1月 中	1月 下	2月 上	2月 中	2月 下	3月 上	3月 中	3月 下
1年 特進	数学Ⅰ	数と式	式の計算					1学期中間試験					1学期期末試験			夏休み						2学期中間試験						2学期期末試験		冬休み						学年末試験		
			実数																																			
			1次不等式																																			
		集合と命題	集合と命題																																			
		2次関数	2次関数とグラフ																																			
			2次関数の値の変化																																			
			2次方程式と2次不等式																																			
		図形と計量	三角比																																			
			三角形への応用																																			
	数学Ⅱ	式と証明	式と計算																																			
			等式・不等式の証明																																			
		複素数と方程式	複素数と2次方程式の解																																			
			高次方程式																																			

授業科目	数学 A				2025年度 数学科シラバス
学年･コース	1学年	特進	単位数	2	
授業内容	第 1 章　場合の数と確率 場合の数を求めるときの基本的な考え方や確率についての理解を深め，それらを事象の考察に活用できるようにする。 第 2 章　図形の性質 平面図形や空間図形の性質についての理解を深め，それらを事象の考察に活用できるようにする。また、性質について論理的に考察や説明ができるようにする。 第 3 章　数学と人間の活動 整数の性質についての理解を深め，それを事象の考察に活用できるようにする。整数に関する事象を論理的に考察し表現できるようにする。				
到達目標	・各章の学習により，数学のよさを認識し，それらを事象の考察に活用して数学的な考え方に基づいて判断しようとする。 ・学習した内容を用いて日常生活に関わることを分析しようとする資質を育む。 ・解法の論理を過不足なく明確に表現できる。				
評価方法	①　知識・技能：定期考査，課題点検テスト，小テスト等 ②　思考・判断・表現：定期考査，ノート，課題などの提出物，レポート等 ③　主体的に学習に向かう態度（粘り強さ・調整力）：授業参加，授業態度，振り返りシート ①～③を総合的に判断する				
使用教材	教科書：「ＮＥＸＴ 数学Ａ」（数研出版） 副教材：「ＣＯＮＮＥＣＴ 数学Ⅰ＋Ａ」（数研出版） 「チャート式 基礎からの 数学Ⅰ＋Ａ」（数研出版） 「大学入試全レベル問題集　数学Ⅰ＋Ａ＋Ⅱ＋Ｂ」（旭文社）				
その他					

				4月			5月			6月			7月			8月			9月			10月			11月			12月			1月			2月			3月		
学年･ｺｰｽ	科目	単元	項目	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下
1年 特進	数学A	場合の数と確率	場合の数					1学期中間試験						1学期期末試験									2学期中間試験						2学期期末試験								学年末試験		
			確率																																				
		図形の性質	平面図形																																				
			空間図形																																				
		数学と人間の活動	約数と倍数																																				
			ユークリッドの互除法																																				
			記数法																																				

授業科目	データサイエンス				2025年度 数学科シラバス
学年･コース	1学年	特進	単位数	1	
授業内容	①データの分析・統計的な推測 代表値（平均値・中央値・最頻値）や散らばり（範囲・分散・標準偏差）などの基本的な統計量を理解し、計算できるようにする。 相関関係の有無や強さを理解し、散布図・相関分析、確率、正規分布などの分析の方法を学ぶ。 ②統計・データサイエンス活用 統計学の考え方や統計解析の基礎を習得することと、身近な題材（データ）から社会の課題を考え、価値のある情報を引き出す方法を学ぶ。 ③地域の問題について考える 個人およびグループワークを通じて、鈴鹿市の問題について考える。 ④政府統計を用いて地域を分析する e-start等を用いて鈴鹿市の問題をデータから分析し、問題を発見する。 ⑤政策提言 データ分析をもとに解決策をグループで考え、発表する。				
到達目標	統計などのデータを用いながら、客観的な事実に基づく分析力、思考力、判断力を養う。 自らの興味関心に基づいてデータを収取し、調査分析を行い、問題解決について考え、発表する。 統計検定３級（日本統計学会）取得				
評価方法	①　知識・技能：定期考査，課題点検テスト，小テスト等 ②　思考・判断・表現：定期考査，ノート，課題などの提出物，発表等 ③　主体的に学習に向かう態度（粘り強さ・調整力）：授業参加，授業態度，振り返りシート ①～③を総合的に判断する				
使用教材	教科書：「ＮＥＸＴ 数学Ⅰ」（数研出版） 副教材：「ＣＯＮＮＥＣＴ 数学Ⅰ＋Ａ」（数研出版） 高校からの統計・データサイエンス活用（総務省統計企画管理官室刊）				
その他					

			4月			5月			6月			7月			8月			9月			10月			11月			12月			1月			2月			3月		
学年	科目	項目	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下
1年 特進	データ サイエンス	データの分析･統計的な推測					1学期中間試験						1学期期末試験									2学期中間試験							2学期期末試験								学年末試験		
		統計･データサイエンス活用																																				
		地域の問題について考える																																				
		政府統計を用いて地域を分析する																																				
		政策提言																																				

授業科目	物理基礎				令和　7年度 理科シラバス
履修学年ｺｰｽ	1　学年	特進	単位数	2	
授業内容	運動とエネルギー・熱・波・電気といった物理基礎の４分野の中から、運動とエネルギーおよび熱の分野を履修する。特に、運動とエネルギーについては他の分野の基礎となるので、時間をかけて重点的に授業を進める。 1　運動とエネルギー ・物体の運動を表す量としての変位、速度、加速度の理解を、ベクトルの理解と合わせて深める。 ・静力学の根幹である作用反作用の力とつり合いの力の違いを明確にし、動力学の理解につなげる。 ・運動方程式を理解することで力に関係する事象を解析する力を養う。 ・仕事とエネルギーの関係を通して、エネルギーが広い意味で保存量であることに気づかせ、次の熱分野につなげる。 2　熱 ・温度と熱の関係から入って、熱力学の第一法則を通して熱と仕事の関係を理解し、エネルギー収支の視点で自然界を分析できるようにする。				
到達目標	理科の目標 ・日常の様々な事象を科学的観点から見つめる事ができる、豊かな自然観をもった人物を育てる。 ・科学的なリテラシーをもった、自然科学が好きな人物を育てる。 学習の目標 ・自然界で生起する様々な力学現象の中から単純化させたものを取り上げ、運動の記述方法について学び、解析力をつけること。 ・力学的エネルギーや熱エネルギーを通してマクロおよびミクロ的な視点から自然現象について考察できる力をつけること。 ・力学や熱学を通して物理学が社会の発展に果たしてきた役割に気づくこと。 ・習った分野では大学入学共通テストレベルの問題を解く力を身につけること。				
評価方法	【知識・技能】(35)…定期試験、小テスト 【思考力・判断力・表現力】(35)…定期試験、授業内活動 【主体的に学習に取り組む姿勢】(30)…授業内活動、振り返りシート等の提出物から総合的に判断して評価する。				
使用教材	教科書：物理基礎（数研出版） 副教材：セミナー　物理基礎・物理（第一学習社）				

●授業進度表

				4月			5月			6月			7月			8月			9月			10月			11月			12月			1月			2月			3月		
学年・類	科目	単元	項目	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下
1年 特進 コース	物理基礎	運動とエネルギー	運動の表し方					1学期中間試験					1学期期末試験									2学期中間試験						2学期期末試験									学年末試験		
			運動の法則																																			
			仕事と力学的エネルギー																																			
		熱	熱とエネルギー																																			

授業科目	体育			2025年度 シラバス
履修　類・学年	全コース	1年男子	単位	2
授業内容	・集団行動 クラスや講座の集団の一員であることを意識して行動させ、体育の授業に取り組む姿勢をつくる。集団の中で秩序ある行動を身につける。 ・体つくり運動 自分の体力・運動能力の現状を確かめる。その結果をよく分析して、不足している能力を高めるためいろいろなスポーツ活動に親しみ、ますます心身を鍛錬して、健康で充実した学校生活が送れるよう努力することを学ばせる。 ・球技（ラグビー、バスケットボール、サッカー） 集団スポーツの特性を理解する。基本的ルールを理解するとともに基本的技能を身につけ、技術を上達させる。 ・持久走（特色種目） 体力とともに最後まで走り抜く精神力と忍耐を養い、日々の練習や記録の蓄積を通じて、努力の成果を可視化し、自己肯定感・達成感の醸成につなげる。 ・陸上 歩く、走、跳、投の人間の基礎的・基本的運動を身につける。体力や運動能力をそれぞれの種目で十分に生かすためには、合理的な運動の技術を身につける。 ・柔道 柔道の基本技術を身につける。相手の動きに対応した攻防ができる。強い精神力と相手を尊重し思いやる心を身につける。ルールを守り、安全に競技を行える。 ・体育理論 合理的な動きを理解し、練習によって身につけることや、必要な体力をトレーニングによって向上させることで、運動やスポーツを生涯にわたって継続していくための基礎を学習する。			
到達目標	・積極的に楽しく運動に取組んでいる。 ・声を掛け合い、励まし合い、教え合いならが技術の習得に取り組んでいる。 ・ゲームを進めるためのルールを理解している。 ・スキルテストで標準技能や技術を習得させる。			
評価方法	知識・技能（4割）　思考・判断・表現（3割）　主体的に取り組む態度（3割）			
使用教材	アクティブスポーツ総合版（大修館）			
その他				

●授業進度表

				4月			5月			6月			7月			8月			9月			10月			11月			12月			1月			2月			3月		
学年・類	科目	単元	項目	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下
1年男子	体育	集団行動	姿勢、方向転換					1学期中間試験					1学期期末試験									2学期中間試験						2学期期末試験									学年末試験		
			集合、整とん、隊形、解散																																			
		体力づくり	体ほぐしの運動																																			
			体力を高める運動																																			
		球技	基本的技能運動																																			
			基本的技術運動																																			
		陸上	基礎、基本的な運動																																			
			合理的な運動																																			
		柔道	基礎、基本の特性運動																																			
			相手との対応した動き																																			
		持久走	体力向上の運動																																			
			精神力や忍耐力メントレ																																			
		体育理論	合理的な運動を学習する																																			
			練習方法や必要な体力																																			
			生涯スポーツの意味																																			

授業科目	化学基礎				令和7年度 理科シラバス
学年・コース	1学年	特進コース	単位数	2	
授業内容	教科書の内容を的確に理解し，日常生活や社会との関連を図りながら物質とその変化への関心を高める。化学を学ぶ上で身につけるべき基本的素養のため，知見を広げ，既有知識と結び付けながら自分なりの意見を持ち，他者に伝えられるよう，「聞くこと」，「読むこと」，「話すこと」（やり取り・発表），「書くこと」の 5 領域を有機的に関連付け，総合的に学習を行う。アクティブラーニング型授業を中心に展開されるため，協同学習では積極的に参加する態度が求められ，家庭学習においても，計画的に学習することが必要とされる。 ①　教科書・資料集を用いた内容理解，情報収集能力の向上。 ②　教科書の探究活動を使った課題解決能力，創造力，表現力の育成。 ③　その他にも随時，副教材や資料等を使用しながら，化学を学ぶ上で身につけるべき基本的素養を涵養する。				
到達目標	化学の基本的な概念や原理・法則の理解から科学的な見方や考え方の資質・能力を向上させ，自律した学修者を目指す。 【第１編　化学と人間生活】 身のまわりにある物質を通して，「化学」を学ぶ特徴を理解する。 【第２編　化学と人間生活】 原子の構造及び電子配置と周期律の関係，物質の性質については化学結合との関係を理解し，物質の種類や形，性質などの科学的な見方ができる。 【第３編　物質の変化】 物質量を学習した後，化学反応の量的関係，酸と塩基の反応から化学反応に関する基本的な概念や法則を理解し，それらを日常生活や社会と関連付けて考察できる。				
評価方法	知識・技能（40）…定期試験，小テスト 思考力・判断力・表現力（30）…定期試験，授業内活動 主体的に学習に取り組む姿勢（30）…授業内活動，振り返りシート等の提出物から総合的に判断して評価する。				
使用教材	教科書：化学基礎【東京書籍】 資料集：フォトサイエンス化学図録【数研出版】 問題集：ニューグローバル　化学基礎＋化学【東京書籍】				

				4月			5月			6月			7月			8月			9月			10月			11月			12月			1月			2月			3月		
学年・コース	科目	単元	項目	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下
1年特進	化学基礎	化学と人間生活	化学とは何か					1学期中間試験						1学期末試験									2学期中間試験							2学期末試験							学年末試験		
			物質の成分																																			
		物質の構成	原子の構造と周期表																																			
			化学結合																																			
		物質の変化	物質量と化学反応式																																			
			酸と塩基																																			
			酸化還元反応																																			

授業科目	体育				2025年度 シラバス
履修　類・学年	全コース	1年女子	単位	2	
授業内容	・集団行動 クラスや講座の集団の一員であることを意識して行動させ、体育の授業に取り組む姿勢をつくる。集団の中で秩序ある行動を身につける。 ・体つくり運動 自分の体力・運動能力の現状を確かめる。その結果をよく分析して、不足している能力を高めるためいろいろなスポーツ活動に親しみ、ますます心身を鍛錬して、健康で充実した学校生活が送れるよう努力することを学ばせる。 ・バレー、バスケットボール それぞれのスポーツの特性を理解する。基本的ルールを理解するとともに基本的技能を身につけ、技術を上達させる。 ・持久走（特色種目） 体力とともに最後まで走り抜く精神力と忍耐を養い、今後の学習活動に活かす。マラソン大会の安全対策とマラソン事前学習の習得とする。 ・陸上 歩く、走、跳、投の人間の基礎的・基本的運動を身につける。体力や運動能力をそれぞれの種目で十分に生かすためには、合理的な運動の技術を身につける。 ・体育理論 合理的な動きを理解し、練習によって身につけることや、必要な体力をトレーニングによって向上させることで、運動やスポーツを生涯にわたって継続していくための基礎を学習する。				
到達目標	・積極的に楽しく運動に取組んでいる。 ・声を掛け合い、励まし合い、教え合いならが技術の習得に取り組んでいる。 ・ゲームを進めるためのルールを理解している。 ・スキルテストで標準技能や技術を習得させる。				
評価方法	知識・技能（4割）　思考・判断・表現（3割）　主体的に取り組む態度（3割）				
使用教材	アクティブスポーツ総合版（大修館）				
その他					

●授業進度表

				4月			5月			6月			7月			8月			9月			10月			11月			12月			1月			2月			3月		
学年・類	科目	単元	項目	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下
1年女子	体育	集団行動	姿勢、方向転換					1学期中間試験						1学期期末試験									2学期中間試験						2学期期末試験							学年末試験		
			集合、整とん、隊形、解散																																			
		体力づくり	体ほぐしの運動																																			
			体力を高める運動																																			
		球技	基本的技能運動																																			
			基本的技術運動																																			
		陸上	基礎、基本的な運動																																			
			合理的な運動																																			
		持久走	体力向上の運動																																			
			精神力や忍耐力メントレ																																			
		体育理論	合理的な運動を学習する																																			
			練習方法や必要な体力																																			
			生涯スポーツの意味																																			

授業科目	生物基礎				令和 7 年度 理科シラバス
学年・コース	1学年	特進コース	単位数	2	
授業内容	第1章 生物の特徴 生物の多様性と共通性の視点を身につけ，生物の体を構成する共通の基本単位である細胞の構造と働きを学び，生命活動に必要なエネルギーと代謝について理解する。 第2章 遺伝子とそのはたらき 生物と遺伝子について，細胞の働き及び DNA の構造と機能の概要を理解する。 第3章 ヒトの体内環境の維持 生物の体内環境について，生物には体内環境を維持する仕組みがあることを理解させ，体内環境の維持と健康との関係について認識する。 第4章 生物の多様性と生態系 生物の多様性と生態系について生態系の成り立ちを理解し，その保全の重要性について認識する。				
到達目標	理科の目標 ・日常の様々な事象を科学的観点から見つめる事ができる、豊かな自然観をもった人物を育てる。 ・科学的なリテラシーをもった、自然科学が好きな人物を育てる。 学習の目標 ・生物や生物現象に対する探究心を高め，目的意識をもって観察，実験などを行い，生物学的に探究する能力と態度を身につけるとともに，生物学の基本的な概念や原理・法則の理解を深め，科学的な自然観を養う。 ・大学入学共通テストレベルに止まらず大学の二次試験問題を解く力をつけること。				
評価方法	知識・技能（35 点）…定期試験、小テスト 思考力・判断力・表現力（35 点）…定期試験、授業内活動 主体的に学習に取り組む姿勢（30 点）…授業内活動、振り返りシート等の提出物 から総合的に判断して評価する。				
使用教材	教科書　生物基礎　数研出版 副教材　リードα生物基礎　数研出版 スクエア最新図説生物　第一学習社				

				4月			5月			6月			7月			8月			9月			10月			11月			12月			1月			2月			3月		
学年・類	科目	単元	項目	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下
1年 特進	生物 基礎	生物の特徴	生物の特徴					1学期中間試験						1学期末試験			夏休み					2学期中間試験						2学期末試験			冬休み					学年末試験		
			遺伝子とそのはたらき																																			
		ヒトの体内環境の維持	ヒトの体内環境の維持																																			
		生物の多様性と生態系	生物の多様性と生態系																																			

授業科目	体育				2025年度 シラバス
履修　類・学年	全コース	1年男子	単位	2	
授業内容	・集団行動 クラスや講座の集団の一員であることを意識して行動させ、体育の授業に取り組む姿勢をつくる。集団の中で秩序ある行動を身につける。 ・体つくり運動 自分の体力・運動能力の現状を確かめる。その結果をよく分析して、不足している能力を高めるためいろいろなスポーツ活動に親しみ、ますます心身を鍛錬して、健康で充実した学校生活が送れるよう努力することを学ばせる。 ・球技（ラグビー、バスケットボール、サッカー） 集団スポーツの特性を理解する。基本的ルールを理解するとともに基本的技能を身につけ、技術を上達させる。 ・持久走（特色種目） 体力とともに最後まで走り抜く精神力と忍耐を養い、日々の練習や記録の蓄積を通じて、努力の成果を可視化し、自己肯定感・達成感の醸成につなげる。 ・陸上 歩く、走、跳、投の人間の基礎的・基本的運動を身につける。体力や運動能力をそれぞれの種目で十分に生かすためには、合理的な運動の技術を身につける。 ・柔道 柔道の基本技術を身につける。相手の動きに対応した攻防ができる。強い精神力と相手を尊重し思いやる心を身につける。ルールを守り、安全に競技を行える。 ・体育理論 合理的な動きを理解し、練習によって身につけることや、必要な体力をトレーニングによって向上させることで、運動やスポーツを生涯にわたって継続していくための基礎を学習する。				
到達目標	・積極的に楽しく運動に取組んでいる。 ・声を掛け合い、励まし合い、教え合いならが技術の習得に取り組んでいる。 ・ゲームを進めるためのルールを理解している。 ・スキルテストで標準技能や技術を習得させる。				
評価方法	知識・技能（4割）　思考・判断・表現（3割）　主体的に取り組む態度（3割）				
使用教材	アクティブスポーツ総合版（大修館）				
その他					

●授業進度表

				4月			5月			6月			7月			8月			9月			10月			11月			12月			1月			2月			3月		
学年・類	科目	単元	項目	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下
1年男子	体育	集団行動	姿勢、方向転換					1学期中間試験					1学期期末試験									2学期中間試験						2学期期末試験									学年末試験		
			集合、整とん、隊形、解散																																			
		体力づくり	体ほぐしの運動																																			
			体力を高める運動																																			
		球技	基本的技能運動																																			
			基本的技術運動																																			
		陸上	基礎、基本的な運動																																			
			合理的な運動																																			
		柔道	基礎、基本の特性運動																																			
			相手との対応した動き																																			
		持久走	体力向上の運動																																			
			精神力や忍耐力メントレ																																			
		体育理論	合理的な運動を学習する																																			
			練習方法や必要な体力																																			
			生涯スポーツの意味																																			

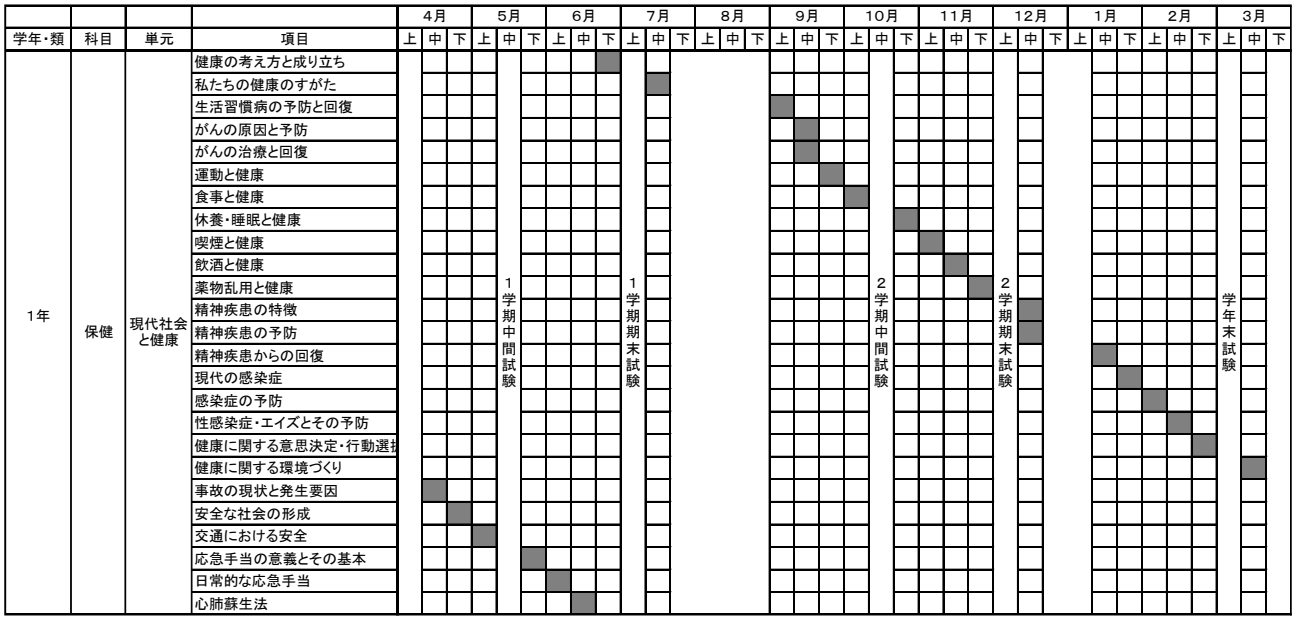
授業科目	体育				2025年度 シラバス
履修　類・学年	全コース	1年女子	単位	2	
授業内容	・集団行動 クラスや講座の集団の一員であることを意識して行動させ、体育の授業に取り組む姿勢をつくる。集団の中で秩序ある行動を身につける。 ・体つくり運動 自分の体力・運動能力の現状を確かめる。その結果をよく分析して、不足している能力を高めるためいろいろなスポーツ活動に親しみ、ますます心身を鍛錬して、健康で充実した学校生活が送れるよう努力することを学ばせる。 ・バレー、バスケットボール それぞれのスポーツの特性を理解する。基本的ルールを理解するとともに基本的技能を身につけ、技術を上達させる。 ・持久走（特色種目） 体力とともに最後まで走り抜く精神力と忍耐を養い、今後の学習活動に活かす。マラソン大会の安全対策とマラソン事前学習の習得とする。 ・陸上 歩く、走、跳、投の人間の基礎的・基本的運動を身につける。体力や運動能力をそれぞれの種目で十分に生かすためには、合理的な運動の技術を身につける。 ・体育理論 合理的な動きを理解し、練習によって身につけることや、必要な体力をトレーニングによって向上させることで、運動やスポーツを生涯にわたって継続していくための基礎を学習する。				
到達目標	・積極的に楽しく運動に取組んでいる。 ・声を掛け合い、励まし合い、教え合いならが技術の習得に取り組んでいる。 ・ゲームを進めるためのルールを理解している。 ・スキルテストで標準技能や技術を習得させる。				
評価方法	知識・技能（4割）　思考・判断・表現（3割）　主体的に取り組む態度（3割）				
使用教材	アクティブスポーツ総合版（大修館）				
その他					

●授業進度表

				4月			5月			6月			7月			8月			9月			10月			11月			12月			1月			2月			3月		
学年・類	科目	単元	項目	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下
1年女子	体育	集団行動	姿勢、方向転換					1学期中間試験						1学期期末試験									2学期中間試験						2学期期末試験							学年末試験		
			集合、整とん、隊形、解散																																			
		体力づくり	体ほぐしの運動																																			
			体力を高める運動																																			
		球技	基本的技能運動																																			
			基本的技術運動																																			
		陸上	基礎、基本的な運動																																			
			合理的な運動																																			
		持久走	体力向上の運動																																			
			精神力や忍耐力メントレ																																			
		体育理論	合理的な運動を学習する																																			
			練習方法や必要な体力																																			
			生涯スポーツの意味																																			

授業科目	保健				2025年度 シラバス
履修　類・学年	全コース	1年	単位	1	
授業内容	1学期　現代社会と健康（健康の考え方と成り立ち～私たちの健康のすがた） 安全な社会生活（事故の現状と発生要因～心肺蘇生法） 2学期　現代社会と健康（生活習慣病の予防と回復～精神疾患の予防） 3学期　現代社会と健康（精神疾患の回復～健康に関する環境づくり） クラス単位の講義形式。 動画視聴や実技、グループ学習、調べ学習なども行う。 「生活習慣」『ストレス』など現代社会を特徴づけるこれらの言葉が示唆するように、私たちの周囲には健康を脅かす数多くの危険因子がある。それらについての知識を深め心身ともに健康的な生活を送るためにどうすればよいかを学ぶ。				
到達目標	現代から将来にわたっての、健康的な生活とは何かを考え、心身の健康の価値を日常生活の中で確認し、自ら進んで行動できるようにする。				
評価方法	知識・技能（4割）　思考・判断・表現（3割）　主体的に取り組む態度（3割）				
使用教材	教科書「現代高等保健体育」（大修館） ノート「現代高等保健体育ノート」（大修館）				
その他	必履修科目				

●授業進度表



授業科目	芸術　音楽　Ⅰ				令和７年度 芸術科シラバス
履修　類・学年	１年	探究・特進 （選択）	単位数	２	
授業内容	主に音楽理論の学習とバンド編成による楽曲の演奏活動を通して、音楽的感性を深め、演奏の基本手法を実習すると共に、主体的かつ創造的な芸術的表現を行う。 １学期　音楽理論（楽典）と実習　視唱　基本奏法の練習 ２学期　基本奏法の練習と合奏・声楽パートの練習及び弾き歌い。発展的な音楽理論の学習 ３学期　発展的合奏表現と作曲 ただし、日本音楽史・西洋音楽史については年間を通して適宜行う。				
到達目標	○基本的楽典の理解。調性音楽の原理理解。借用和音と転調の理解。 ○メンバーの志向等を共有・共感しながら演奏課題曲の選定と担当楽器の設定を行う ○各楽器の基本奏法の理解と演奏。コード・ネームに関連した楽典の理解と連携。 ○各楽器に関連した機材等の効果および操作理解 ○個人練習・合奏練習のメニュー理解と稽古実施 ○声楽的観点による歌唱表現の工夫　○弾き歌いを中心にした楽曲の解釈と理解 ○音楽における様々な様式と歴史の理解および応用				
評価方法	**［単位修得要件］** 出席日数、授業参加練習態度、持ち物（楽譜など）、順番で行うレッスン等の評価、振り返り冊子への記録と記入、学期ごとの学科（筆記）試験、同学年末の演奏実演。以上を加味しながらこれらを「知識・技能」40%「主体性」30%「表現力・判断力・思考力」30%の観点別で評価を決定する。				
使用教材	教育芸術社　MOUSA　Ⅰ　及び　各グループ毎の課題曲楽譜　　資料プリント等				
その他	**［あらかじめ要求される基礎知識の範囲］** 小・中学校で培われた音楽的演奏能力および音楽的知識一般。ただし楽器演奏の経験および能力は特に問わない。 **［注意事項］** この授業は主体的な音楽表現を試みる事を目的としている。そのため音楽理論の専門的な知識の理解や、初めて演奏する事になる楽器の演奏などについて、指定された課題を丁寧に練習していくことが求められる。これらの総体として音楽的表現の可能性を実体験し追求して欲しい。				

●授業進度表

学年・類	科目	単元	項目	4月			5月			6月			7月			8月			9月			10月			11月			12月			1月			2月			3月		
				上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下
探究特進1年	音楽	楽典	音部記号　音名　音符と休符　小節と拍子とリズム　楽語																																			
			音階と調																																			
			楽式																																			
		機能和声の論理	音階から和音（コードネーム含む）																																			
			カデンツ																																			
			準固有和音																																			
			副五の和音・転調																																			
		ソルフェージュ	視唱																																			
		器楽演奏と弾き歌い	各楽器の基本奏法																																			
			発展的な奏法																																			
			合奏時の機材使用法と留意点																																			
			合奏練習																																			
			弾き歌い																																			
		表現とパフォーマンス	作曲																																			
			曲の表現プラン																																			
			舞台芸術としての観点とその理解																																			
		日本音楽史	古墳時代　奈良時代　平安時代																																			
			鎌倉時代　安土桃山時代　江戸時代																																			
			明治時代　昭和初期																																			
			現代																																			
			郷土の民謡と芸能																																			

1学期中間試験　1学期期末試験　2学期中間試験　2学期期末試験　学年末試験

授業科目	芸術　美術　Ⅰ				令和7年度 美術科シラバス
履修　類・学年	1年	探究．特進（選）	単位数	2	
授業内容	●高校美術オリエンテーション ●初めての油彩画　油絵の具を使った表現 ●鉛筆・色鉛筆を使った表現 ●アクリル絵の具を使った表現 ●彫刻 ●作品鑑賞 （その他の制作、状況に応じて変更あり）				
到達目標	美術の幅広い創造活動を通して、造形的な見方・考え方を働かせ、美的体験を重ね、生活や社会の中の美術や美術文化と幅広く関わる資質・能力を育成することを目指す。美術の表現活動を通して美術を好きになる。 ＊学習上の注意・助言 ・提出物の提出期限は必ずまもる。 ・準備や後片付けをきちんと行う。（忘れ物をしない） ・計画的に作業し、予定どおりに作品を完成できるように努力する。 ・作品を早く仕上げることよりも、最後まで試行錯誤しながら工夫し、困難を乗り越え創り上げることを大事にしたい。 ・鑑賞の学習では、作者の心情やその背景にあるもの、表現の意図と工夫について考える。 ・作品について良さや美しさ、感じたことをじっくり話し合う。 ・年3回の定期テストもしっかり準備して臨む。				
評価方法	[単位修得要件] 課題に要求される習熟度、作品の完成度、授業態度、出席日数、学年末の学科試験を加味し「知識・技能」40%、「主体性」30%、「表現力・判断力・思考力」30%で評価する。				
使用教材	光村図書　高校美術1　資料・配布プリント　他				
その他	[あらかじめ要求される基礎知識の範囲] 小・中学校で学んだ美術の基本的知識、技能。				

●授業進度表

				4月			5月			6月			7月			8月			9月			10月			11月			12月			1月			2月	
	科目	単元	項目	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中
学年・類																																			
1年選択（特進、探究）	美術	オリエンテーション	美術を仕事にしない皆さんが美術を学ぶ意味を考える。より豊かな人生の為、また美術を応用した仕事や分野を考える。SNSやAIが台頭する時代のヒントとは。																																
		初めての油彩画	油彩の基礎技法を身に付ける。技法だけでなくモチーフを観察する力、自己の表現について考察する。																																
		絵画とデザイン（世界の美術史、日本の美術史を織り交ぜながら展開）	素描～（鉛筆）練習①グラデーション②球体を描く③円柱を描く																																
			素描～漢字のイメージを手のデッサンで表現																																
			デザイン表現・色彩の基礎　～けん玉に日本・諸外国・オリジナル文様で着彩																																
			彫刻～白彫板に彫刻・着彩																																
		鑑賞	鑑賞～古今東西の作家の作品やその生涯を鑑賞、また友達の作品を相互鑑賞したり、自らの制作を振り返る。																																

1学期中間試験　1学期末試験　2学期中間試験　2学期末試験

授業科目	**書道Ⅰ**				**令和７年度** 芸術科シラバス
履修　学年・類	1年	全コース（選）	単位数	2	
授業内容	・ 書写と書道の違いを理解する。姿勢・執筆法、用具・用材を理解する。 ・ 書の歴史を知る。 ・ 中国の歴史的作品の鑑賞・理論を通し、臨書（実技）をする。 　・ 楷書の学習 　・ 行書の学習 ・ 平仮名、片仮名の成り立ちを理解し、平安時代の仮名の基礎を学ぶ。 　・ いろは歌・連綿 ・ 漢字仮名交じりの書を通して、伝達から表現を目的とした書作品を学ぶ。 ・ 日常生活における実用的な書を学ぶ。				
授業計画	・ 楷書の学習（中国古典：九成宮禮泉銘・孔子廟堂碑・雁塔聖教序・顔氏家廟碑） ・ 行書の学習（中国古典：蘭亭序、日本古典：風信帖） ・ 仮名の学習（平仮名、片仮名の成り立ち・いろは歌・連綿） ・ 生活の中の書（実用書道） ・ 硬筆の学習（平仮名、片仮名の正しい書き方） （その他、時間や状況に応じて変更有り）				
到達目標	・ 書写と書道の違いを理解する。 ・ 書く姿勢、筆の持ち方、用具・用材についての知識を理解する。 ・ 漢字の変遷と様々な書体の成立と基本用筆について理解する。 ・ 作品を鑑賞し、臨書を通し、字形や運筆の特徴を表現する。 　（背勢と向勢・蔵鋒と露鋒・方勢と円勢の違い等） ・ 行書の成立と基本用筆について理解し、楷書との違いを理解し、表現する。 ・ 平仮名、片仮名の成り立ちを理解する。 ・ 仮名の成立と基本用筆・連綿の流動美を理解し、表現する。 ・ 生活で必要な実用書道の基礎・基本的な事項を理解し、文字の原則・原理に基づいて書くことができる。				
評価方法	毎時間の作品提出、習熟度、出席日数、授業態度、持ち物（教科書と道具）、学期末の学科試験を加味して知識･技能 40%、思考・判断・表現 30%、主体的に学習に取り組む態度 30%を総合的に評価決定する。				
使用教材	光村図書　書Ⅰ 資料・プリント教材等				
その他					

●授業進度表

				4月		5月			6月			7月			8月			9月			10月			11月			12月			1月			2月			3月			
学年・類	科目	単元	項目	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下
1年 全コース	書道	復習	書写の復習																																				
			書写から書道へ																																				
		楷書	九成宮禮泉銘					1学期中間試験						1学期末試験						2学期中間試験					2学期期末試験									学年末試験				
			孔子廟堂碑																																				
			雁塔聖教序																																				
			顔氏家廟碑																																				
		行書	蘭亭序																																				
			風信帖																																				
		制作	伝達から表現へ																																				
		仮名	いろは歌・連綿																																				
		調和体	生活の中の書																																				
		硬筆	平仮名・片仮名																																				

授業科目	英コミュニケーションⅠ				令和７年度 英語科シラバス
学年・コース	１学年	特進コース	単位数	３単位	
授業内容	教科書に基づき、さまざまな種類の英文を読み、英語を通じて、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成するとともに、情報や考えなどを的確に理解し、自らの考えを適切に伝えたりする基礎的な能力を養う。「読む」「聞く」「対話する」「発表する」の４技能を有機的に関連付けて学習活動を行う。JET の授業での既習内容を ALT との言語活動を通じ、英語運用能力の向上に努める。 １）教科書に基づく内容理解 ２）Retelling & Speaking を使った表現活動 ３）ALT 作成による Listening を通じた聞く活動、ダイアログ作成による表現活動 ４）その他にもアプリなどの ICT ツールを用いた教育活動にも挑戦する。				
到達目標	「読む」「対話する」「聞く」「発表する」の４技能について学年末までに次のことができるようになることを目指す。 １）事物に関する紹介や対話などを聞いて、情報や考えなどを理解したり、概要や要点をとらえたりすることができる。 ２）説明や物語などを読んで、情報や考えなどを理解したり、概要や要点をとらえることができる。また、聞き手に伝わるように音読することができる。 ３）聞いたり読んだりしたこと、学んだことや経験したことに基づき、情報や考えなどについて、話し合ったり意見の交換をすることができる。 ４）身近な出来事や自分の考えを，簡単な英文で読み手に伝わるように書くことができる。				
評価方法	評価の観点（①知識・技能 ３３％②思考・判断・表現 ３３％③主体的に学習に取り組む態度 ３３％） ・定期テストには教科書で用いた内容に従い、リスニングテストを実施し、知識や技能を評価する。 ・授業参加や発表の回数、グループワークや振り返りシート等によって、表現力や主体性、協働性、学習に向かう姿勢を評価する。 ・週末等に課される課題等を提出物として評価対象とする。 ・その他提出物、小テストや教科書の暗唱なども評価対象とする。				
使用教材	・FLEX English Communication Ⅰ【増進堂】 ・FLEX English Communication Ⅰ Workbook 【増進堂】 ・ターゲット 1900 【旺文社】				
その他	３単位の内１単位は，ネイティブと日本人英語教師との Team Teaching である。定期試験にはリスニング問題が課せられる。 定期試験は７０分とする。				

			4月			5月			6月			7月			8月			9月			10月			11月			12月			1月			2月			3月		
学年・コース	科目	項目	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下
1年 特進	コミュ英Ⅰ	How can we becomes stronger?																																				
		The Jar of life																																				
		It's always sunny in Space																																				
		Malala																																				
		Mount Fuji																																				
		Thomas the tank Engine and SDGs																																				
		Virtual Water																																				
		Wearable Robots May Change Our Life																																				
		Biomimicry																																				
		Donald Keene and his love of Japan																																				

授業科目	論理・表現Ⅰ				令和７年度 英語科シラバス
学年・コース	１学年	特進コース	単位数	３単位	
授業内容	① 教科書、ワークの文法事項を学び、文の構造を理解できるようにする。 ② 短文で学習した文法事項が、まとまった文章の中でどのように使われていくかを提示し、発信で使える表現も併せて記憶するようにする。 ③ 授業で扱った事項は、授業プリントでセルフチェックできるようにする。 ④ 授業内で学習した内容を使用して、ペアまたはグループで発信及び筆記する活動なども適宜実施する。				
到達目標	言語や文化に対する理解を深め，コミュニケーションを図ろうとする態度を養うとともに，論理的な思考力を養い，論理の展開や表現の方法を工夫し，伝える能力を養う。又、そのための文法事項の定着も目指す。				
評価方法	評価の観点（①知識・技能 33%②思考・判断・表現 33%③主体的に学習に取り組む態度 33%） ・定期考査では文法問題に加え、英作文、その他の問題も実施する。 ・週末・長期休暇などに課される課題などの提出物を評価する。 ・その他主体的な取り組みを評価する。（授業プリント、参加シートなど）				
使用教材	・be English Logic and Expression Ⅰ Smart (いいずな書店) ・be English Logic and Expression Ⅰ Grammar Book smart (いいずな書店) ・英文法・語法 Vintage 4th Edition (いいずな書店) ・プリント（適宜配布）				
その他	・提出物は、指定日までとする。				

				4月			5月			6月			7月			9月			10月			11月			12月			2月			3月	
科目	単位	項目	文法	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中
論理・表現Ⅰ	3	intro	文型					1学期中間考査					1学期期末考査							2学期中間考査					2学期期末考査						学年末考査	
		L1~L3	時制																													
		L4・L5	完了																													
		L6~L8	助動詞																													
		L9	受動態																													
		L10・L11	不定詞																													
		L12~L15	不定詞・動名詞・分詞																													
		L16~L18	関係代名詞・関係副詞																													
		L19・L20	原級・比較級・最上級																													
		L21~L23	仮定法・接続詞・that節																													

授業科目	情報Ⅰ				令和７年度 情報科シラバス
学年・コース	１学年	特進コース	単位数	２	
授業内容	**1. 情報社会の問題解決** ・ 情報・メディアの特性 ・ 問題解決の考え方 ・ 法の重要性と意義 ・ 情報社会と情報セキュリティ ・ 情報技術の発展による生活・社会の変化 **2. コミュニケーションと情報デザイン** ・ メディアとコミュニケーション ・ 情報のデジタル化 ・ 情報デザイン **3. コンピュータとプログラミング** ・ コンピュータのしくみ ・ アルゴリズムとプログラム ・ モデル化とシミュレーション **4. 情報通信ネットワークとデータの活用** ・ 情報通信ネットワークのしくみ ・ 情報システムとデータベース ・ データの活用				
到達目標	1. 課題や目的に応じて情報手段を適切に活用し、必要な情報を主体的に収集・判断・処理・表現・創造し、受け手の状況をふまえて発信・伝達できる。 2. 情報手段の特性を理解し、自らの情報活用を評価・改善するための基礎的な理論や方法が理解できる。 3. 情報や情報技術が果たしている役割や及ぼしている影響を理解し、情報モラルの必要性や情報に対する責任について考え、望ましい情報社会の創造に参画する態度を養う。				
評価方法	3 つの観点「知識・技能」（40%）、「思考・判断・表現」（30%）、「主体的に学習に取り組む態度」（30%）をもとに、各学期の定期試験、実技課題、提出物や授業に取り組む姿勢等を総合的に判断して評価する				
使用教材	教科書 『 情報Ⅰ 』 日本文教出版、副教材 Life is Tech ！ Lesson				
その他	Google Classroom を活用する				

●授業進度表

学年・コース	科目	単元	項目	4月		5月			6月			7月			8月			9月			10月			11月			12月			1月			2月			3月		
				中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下
1年全コース	情報Ⅰ	情報社会の問題解決	情報・メディアの特性																																	
			問題解決の考え方																																	
			法の重要性と意義																																	
			情報社会と情報セキュリティ																																	
			情報技術の発展による生活・社会の変化																																	
		コミュニケーションと情報デザイン	メディアとコミュニケーション									1学期期末試験									2学期中間試験						2学期期末試験								学年末試験		
			情報のディジタル化																																	
			情報デザイン																																	
		コンピュータとプログラミング	コンピュータのしくみ																																	
			アルゴリズムとプログラム																																	
			モデル化とシミュレーション																																	
		情報通信ネットワークとデータの活用	情報通信ネットワークのしくみ																																	
			情報システムとデータベース																																	
			データの活用																																	